

24 時間×365 日考える事が必要 0228

企業文化を作り上げること

クレーム・トラブルの未然防止を行うためには、従業員教育を含めた安全の企業文化を創り上げることが必要です。安全担当の方、組織の責任者の方は、従業員の安全に対して、24 時間×365 日考え続ける事が必要なのです。

食品工場の労災で一番多いのは、転倒事故です。転倒事故の中でも、階段の転倒事故は大げがつながります。階段での転倒事故を防ぐためには、「階段を降りるときに必ず手摺りを持つこと」とルールを作り、朝礼などで教育を行います。クレーム・トラブルも発生する可能性を常に想定して、防ぐ方策を定め教育を実施します。

教育を行っても、手摺りを持たないで階段を降りる方がいた場合は、誰がチェックする仕組みになっているか、確認が必要です。

クレームであれば、再発防止策を教育し、防止策を確実にに行っているかの確認が必要です。

担当者が点検しているときに、手摺りを持たずに階段を降りる方がいれば、声をかけ注意し、再度、朝礼などで指導します。

企業文化として、安全が身についたかどうかは、階段を降りるときに、全員が手摺りを持って降りるだけで無く、手摺りを持って降りない方がいれば、見かけた方が、従業員同士で注意し合うようになっていることが必要です。

私も、工場に行ったときに、いままで一回だけ注意されたことがあります。注意したのは、新入社員で、丁度、安全教育を受けたばかりだそうです。

工場管理で大切なのは、まず、労災を起さない安全教育です。従業員の安全さえも守れない工場では、商品を購入していただいた、お客様の安全を守れるはずは無いのです。

作業靴の裏を毎日確認しているか、サッカーの試合では、たとえ子供の試合であっても、靴の裏のスパイクを確認しています。毛髪混入防止のための相互確認を行う前に、階段での手摺りを持つかどうか、作業靴の裏がすり減っていないかどうかの、相互確認を行い、例えば安全管理の担当者で無くても、注意し合うことが必要なのです。

報道によると、農薬を製品に混入された工場でも、混入させた従業員は、日常的に担当以外の作業場に入り、つまみ食いなどをしていたそうです。担当以外の作業場で「あなたの現場ではないでしょう」と従業員に注意されていれば、大きな事件にならなかったはずです。

安全に上司も部下もありません。階段を降りるときに手摺りを持たない方がいればお互いに注意し合う企業文化を創り上げることが、クレーム・トラブルの未然防止につながるのです。

[食品工場の危機管理の基本](#) [危機管理センターについて](#) の [目次に戻る](#)

こんな事が聞きたい方は [連絡先](#) から お願いします。

<http://ja8mrx.o.o7.jp/koujyou1.htm>

